

2023 年度 北陸産学技術交流会 参加者アンケート結果

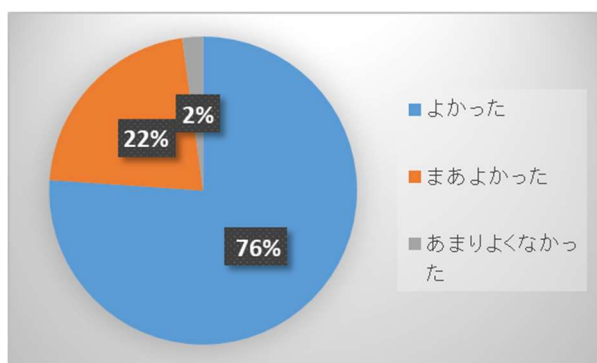
1. 技術交流会の開催状況

会員企業・大学に情報交換テーマを募集したところ3団体から3テーマの応募があり、提案団体（主催）と打合せを実施し、3テーマで技術交流会（見学会）を開催した。

2. 参加者アンケート結果 【回答：46名（参加者54名）】

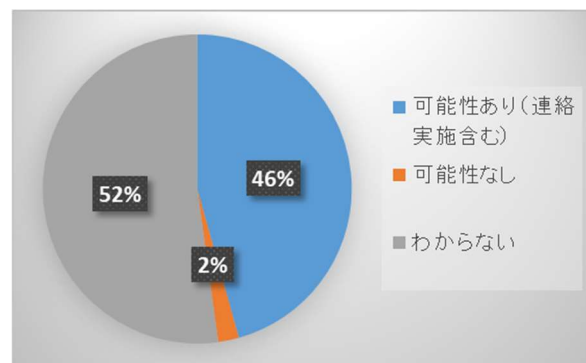
(1) 技術交流会に参加して有意義でしたか？

・よかった	35
・まあよかった	10
・あまりよくなかった	1



(2) 今後連絡をとりあう可能性はありますか？

・可能性あり（連絡実施を含む）	21
・可能性なし	1
・わからない	24



(3) 自由意見（○：肯定、△：改善・気が付いた点）

- 様々な業種の方達と同席できるよい機会であった。
- 自社事業に関連した素晴らしい研究施設があることを知ることができ、今後連携の可能性がある。
- 地元の大学の取組みを知ることができ、有意義な情報収集ができた。
- 工場見学を通じて実際の取組みを見ることができ、参考になる点が多々あった。
- 今後も優良企業の工場見学の機会を設けてほしい。
- △申込時に取組内容の具体的な説明があれば、もっと適した参加者を人選できた。
- △意見交換は人数が多く質問しにくい雰囲気だったので、もっと話ができればよかった。
- △テーマについて、より深い話ができれば、なおよかった。

3. 主催アンケート結果 【回答：3（主催：3）】

(1) 交流会開催の成果がありましたか？

・期待以上の成果があった	2
・まあまあ成果があった	1
・あまり成果がなかった	0

(2) 連絡をとりあう可能性はありますか？

・可能性あり（連絡実施を含む）	3
・可能性なし	0
・わからない	0

(3) どのような成果がありましたか？

- ・人文科学系、社会科学系分野など幅広い分野の方と意見交換ができた。
- ・研究施設への入居についての相談があった。
- ・総合商社等から最新情報の収集をできた。
- ・県外からの参加者にも研究施設を認知して頂ける良い機会であった。
- ・大学主催のイベントとコラボレーションしたことで大きな集客につながった。
- ・研究施設の協力会員（メールマガジン会員）の登録者が増加した。
- ・環境に対する当社の取組みを参加者の方に理解して頂いた。

(4) 今後開催される主査への運営面でのアドバイス等

- ・交流会終了後に 15 分程度の名刺交換の時間を予定していたが、個々の人と話していたら 30 分程度を要した。
- ・他イベントとコラボレーションする場合には、別途、名刺交換や意見交換などの時間を取れるように段取りすべきであった。

(5) 次年度の技術交流会テーマ募集があったら再度応募しますか？

・応募したい	1
・応募を検討する	2
・応募はしない	0
・わからない	0

4. 事務局の評価と今後の対応案

- ・参加者アンケートでは、「よかった(76%)」「連絡の可能性あり(46%)」、主査アンケートでは「期待以上の成果(67%)」「連絡の可能性あり(100%)」であり、オープンイノベーション促進の契機となる交流の場を提供できたと考える。
- ・主査アンケートでは、取組みを知って頂く機会となった、研究施設への入居の相談、協力会員の登録増加、参加者から最新情報を収集できた等の成果があったと回答を得られた。
- ・本取組みが一定の評価を得たことより次年度も開催する。
- ・今年度は全て見学会形式でのリアル開催であり、大学が主査の交流会は夏休み期間中の9月開催であったため、テーマ募集時期は今年同様に4月頃が適当と考える。
- ・改善点として、申込時に取組内容の具体的な説明があれば良かったと回答があったため、主査と打合せして取組内容を分かりやすいように募集チラシの表現等を工夫する。また、意見交換・質疑応答において、参加人数が多く手を上げて質問しづらい雰囲気であったと回答があったため、名刺交換など個々に話しできる時間も設けるように主査へ助言する。

以上